

日本語の再発見

言葉の働き

「人は言葉で考える」とはよく耳にする命題である。私たちは、物事を考える場合に、言葉を使って考えるものであるが、この場合の言葉は、普通、頭の中でだけで働いてみて、普通の言葉のやうに発音を伴って外に表れて来ることがない。それで、発音を伴った普通の言葉に対して、考える時に用ひる言葉を“内言”と言ふ。

幼児などは、よく独り言を言ひながら遊んでゐるが、これは考えるのに用ひる言葉がそのまま発音を伴ふ普通の言葉になって外に表れ出したものであって、それはやがて成長するにつれて発音を伴はない“内言”に変わって行くものである。

この事から、「言葉の生命は“思想”に在るのであって、“発音”に在るのではない」といふ事がよく解ると思ふ。(この事は、後に触れるが、極めて重大な命題である)